

2017/2/11

(日々雑感 11)



昨日は、小雪の舞う中、久しぶりに地元新百合ヶ丘に行き、大腸手術の後に、御難続きで、今度は頭に抜いても抜いても血がたまる（無論頭蓋骨の内側ではなく、外側ですが）という原因不明の変な病気にかかってしまったので、お医者さんに行って、しばらく間がいていた、それで三度目の血抜きをしてもらいました。その後、ある会社に行って打ち合わせと依頼をし、時折モバイル端末でメールのやり取りをした後、最後はスーパーで買いだめをして、夕暮れになったので、これまた久しぶりにちょっと一杯引っかけから仮の宿に帰りました。スマホで見ると、夕暮れのこととて気温0度。

しかし、何故だか全然寒くありません。マフラーも手袋もなし。結構ぼっぼしていました。ところで、その帰りしなのメールでのやり取りの中で「脳活性化」という言葉が出てきたのですが、考えてみれば、こういった書き物や事業の再立ち上げに奔走しているのは、ご大層な旗印の文言建前のようなことではなく、実はなんのことはない、脳活性化、言い換えれば「ボケ防止」の大仕掛けの対策にすぎないのかもしれないなという気がふとしました。

新百合ヶ丘の、それこそ百合が咲く丘の上にある「天空の城」に住めなくなって、さまよい歩くような身の上に「墜ちて」みると、なんだか少しずつ力が抜けてくるようになった気がします。それで今まで考えもしなかった別の角度からいろんなものを見ることが出来るようになった気も。

例えば貧乏とかお金とか欲とかボケ防止とか言う切り口です。

それで、こんな副産物が得られるのなら、いっそのこと自治会副会長の任期が切れる一年後には、あの家を売り払って、この六畳間を自宅兼本社にしてしまった方が良いのではないかという気もしてきました。

いやいや、少なくとも選択肢の一つとして急浮上してきたというところまでかもしれませんが。

なににせよ「至る所、青山（せいざん）あり」は本当のようです。

あるいは又、一方で、純粋培養物に少しずつ「濁りを混ぜ入れる」カウンター・バランス取りの作業をしているような気がしないでもありませんが。